



### 「大切なものをくれたYMCA」

土淵中学校1年 桂優花(YMCA 学童保育ぶらいむ・たいむ前潟校OG)

転校したばかりで、人見知りだった私は、YMCAに  
いる時間が不安で仕方ありませんでした。それに、他  
の学校の子や違う学年の子がいるので、毎日緊張して  
いました。そんな私が変われたのは、「うれしかったこ  
と」があったからです。

1つ目はいっしょに遊んでくれたことです。私が話  
しかけられなくても、みんなが誘ってくれました。みんな  
が笑わせてくれました。みんなにとってはちっちゃいこ  
とでも、私にとってそれはでっかいことでした。

その中でも1番「うれしかったこと」は、みんなが味方  
でいてくれたことです。私が困っていたら、みんながい  
っしょに考えてくれて、私の元気がなかったら、みんな  
が笑わせてくれました。どんな時でも味方でいてくれ  
た人がいるから、私は今こんなにも楽しくすごすことが  
できたのだと思います。

それからYMCAは、私にとって大切な思い出の場所  
となりました。毎日、「今日は何をしようかな」「はやく  
YMCAに行きたい」と思うようになりました。

YMCAのみんなは「仲間と楽しむこと」をできるよう  
にしてくれました。

リーダーは「どんな人も思いやること」を教えてくれ  
ました。だから、私を変えてくれた  
YMCAの友だち、リーダーのみな  
さん、私にたくさんの「たいせつな  
もの」をくれて、ありがとうございます  
でした。



### 盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

## 盛岡 YMCA フットサル大会

「やったぁ!」「ドンマイ!次決めよう!」子どもたちの歓喜の声が滝沢市東部体育館の外まで響いています。

3月10日(日)今年で7回目となる「盛岡YMCAフットサル大会」が滝沢市東部体育館で行われました。盛岡YMCAサッカースクールは今年の冬、膝まで積もったふかふかの雪の上で練習や試合を行っており、上手にボールコントロールする事は皆無に等しい状況でした。それでもYMCAサッカースクールの子どもたちは雪でボールコントロールがうまくいなくても声掛けは威勢がとってもいいのです。その威勢の良さをそのままに、自由自在にボールをコントロールできる場所でのサッカーをする子ども達はキラキラした汗を飛ばし、キラキラした目をしていました。低学年はとにかくボールをよく追いかける、高学年はパスの精度や動き出しまで考えながらサッカーをしている子どもが多くみられ、みんな本当にサッカーが好きなんだなぁと感じました。

もう一つ、盛岡YMCAのフットサル大会の特徴として大きく挙げられるのが、リーダー達です。

リーダー達はただの応援団・コーチではありません。試合には出られないものの「心」と「魂」は子どもたちと一緒にコート内にいました。試合が始まる前からチームを盛り上げ、試合中はずっと仲間を鼓舞し、点数が入ると子どもたちに駆け寄り一緒に喜びを爆発させる。そんな熱い、そして楽しいリーダーが仲間なら子ども達も盛り上がるのは当然です。

そんなリーダーが多く存在するからこそ子どもたちもYMCAでサッカーするのが楽しいんだろうと感じました。他のサッカースクールでは絶対に味わえない、そんなサッカースクールにしていきたい。こうやってみんなが集まってサッカーを一緒にできる素敵な空間を大事にしていきたいとあらためて思いました。

YMCAサッカー大会担当スタッフ 東森聡



## 3月 サンデースクール

みなさんこんにちは!ダイラーです!私からは、3月25日に行われた3月サンデースクールについて報告いたします!3月サンデーのテーマは海外料理を作ろう!ということで、みんなでタコス作りをしました。まず、はじめにタコスの皮の部分、トルティーヤを作ります。

グループで協力しながら、小麦粉などの材料を計り、ひたすらこねます。子供たち同士でボウルを押さえながら生地をこねていました。トルティーヤを発酵させている間に具の準備をします。ひき肉、トマト、レタスを手分けして調理しました。

具材の準備ができたら、いよいよトルティーヤを焼きます。麺棒を使いながら、生地を伸ばし、焼いていきました。各々とても個性的なトルティーヤになりました。

最後は全員でいただきますをして、もぐもぐタイム。美味しい〜という声がたくさん聞こえてきます。

子ども13人、リーダー4人といつもより人数は少ないサンデーでしたが、とても楽しい時間になりました。

岩手県立大学3年 松平大知

## スプリングスキーキャンプ

こんにちは!ビリケンです!

3月21日~23日に行われましたスプリングスキーキャンプでメインを務めさせていただきました。子ども9人、リーダー4人という少人数キャンプということもあり、今回のキャンプはグループワークだけでなくグループを超えて全体で関わりあえるキャンプを目指しました。

集合時は緊張している子どもも見受けられましたが、バスプロやお昼ご飯を食べながらグループのお友達とステレオクイズの問題を考えている間にすっかり打ち解けていました。

スキーレッスンは初級と中級の2つのグループに分けられました。初級も中級も楽しく滑ることが出来ました。露天風呂が素敵なお風呂に入って、おいしい晩御飯を食べて、その後のナイトプログラムではポケモンならぬひげモンを育てて戦わせるプログラムをしました。ナイプロ終了後には、みんなで日記を書きました。「ビリケンはスキー中に転んでたよ!」とか「ナイプロのつよぼんは弱かったよね!」とか、子どもたち同士でいろんな思い出を話しながら日記を書いていました。就寝時間までのフリータイムでは、男の子のお部屋でお菓子を食べながらトランプをして遊びました。

2日目は大雪でコンディションが悪い中、午前中は初級と中級に分かれ、みんな一生懸命レッスンに臨んでいました。午後はお部屋に戻って子どもたちが企画したパーティーの準備をする子どもたちと、初級と中級の合同グループで楽しくふざけつつもレッスンをした子どもたちがいました。パーティーの準備は子どもたち主体で宝探し用の封筒やピニャータや招待状を作りました。初級と中級の合同で滑ったスキーは、コンディションの悪い雪の中、苦戦する場面もありましたがそれでも「楽しかった」という声が聞こえるほど一生懸命滑りました。

またまた露天風呂が素敵なお風呂を満喫し、おいしい晩御飯も満喫し、低学年・中学年・高学年に分かれて協力するナイトプログラムを行いました。ナイトプログラムのあとは子どもたちで企画したパーティーを楽しみました。6年生のお兄さんをパーティーに誘う1年生の女の子が居たり、1年生の女の子とチームを組む5年生の女の子が居たり、学年や性別の壁をこえた空間になっていました。

あっという間の最終日。午前中は初級と中級に分かれてワッペンテスト前の最後のレッスンを行いました。みんなで並んでお昼ご飯を食べたあと、全員で頂上まで行き、ワッペンテストを行いながら、みんなで下まで滑っておりました。一生懸命滑っているお友達を応援したり、スピードをつけて滑ったり、ビリケンがまた転んでそれをみんなで笑ったり、いろんな個性を見ることが出来る時間でした。スキーレッスン終了後のフリータイムは、2日目のナイトプログラムでもらったサインカードにそれぞれがみんなのサインを集めていました。「サインちょうだい」と相手に伝えるのは少し恥ずかしそうでしたが、元気な1年生たちをきっかけに、全員がみんなのサインをもらうことができていました。

今回のキャンプは、最初に掲げた目標「グループを超えて全体で関わる」ことが達成されたキャンプであったと思います。リーダーも目標に向かって努力したけれど、子どもたちそれぞれの個性に助けられた部分もとても多くて、みんなで作り上げるキャンプってやっぱり良いなぁと切に思っています。

この冬ラストのスキーキャンプ、楽しかった〜! 春からもみんなと一緒に楽しむぞ!!

岩手大学 教育学部3年 尾河芽生

## 6年生を送る会

盛岡 YMCA の学童4校のうち、3つの学童で『6年生を送る会』が行われました。6年生は様々な思い出を振り返りながら、1年生～5年生はありがとうの気持ちを込めて、笑いあり涙ありの送る会が行われたようです。

### ぶらいむ・たいむ本町校

3月28日、ぶらいむ・たいむ本町校の6年生を送る会が行われました。高学年になってからそれぞれの生活も忙しくなり、なかなか6年生が揃うことも少なくなっていたので久しぶりの集合となりました。今年送り出すことが出来たのは5人の子もたちです。なかなか会えなくなる6年生と楽しい思い出を作ろうとゲーム大会を行いました。その名も「ぶらいむ戦隊6ネンジャーVSワリダー」の戦い!!6年生には変身アイテムも渡し、味方となる後輩たちを従えて戦ってもらいました。いろいろなミニゲームをするたびに戦士たちにはポイントが与えられ、その得点の分だけワリダーのHPを削っていきます。昔から自由奔放な6年生。そして、それを見て育ったからか、YMCAにはそういう子が集まるのかわかりませんが後輩たちも皆自由奔放。てんやわんやのゲーム大会でしたが、最後は6年生がワリダーにとどめを刺してくれ、無事に勝利を収めました。

そして、後輩たちから花束とアルバムのプレゼントを渡してもらい、6年生から一言もらいました。照れ屋ばかりなので言葉はあっさりとしていましたが、振り絞って皆の前で言ってくれたことや6年間いてくれたことに意味や思いがあるのかなと思っています。6年前、9人いた小さな1年生はそれぞれ個性が強く、楽しかった思い出も試行錯誤した思い出も多い学年でした。途中で4人の子が抜けていきましたが、学校などで会うと無邪気な笑顔で声をかけてくれました。6年生まで残ってくれた5人の子には本当に感謝します。6年生を慕って遊んでいた後輩たちが友だちとの楽しみ方などをしっかり引き継いでくれることを願います。



ぶらいむ・たいむ本町校スタッフ 家村 知佳

### ぶらいむ・たいむ前潟校

3月は別れの季節です。ぶらいむ・たいむ前潟校でも6年生が旅立ちました。3月30日(金)、1階のプレイルームにて5名の卒業生と40名の5年生以下の子もたち、スタッフ7名で「6年生を送る会」が行われました。5名の卒業生のうち、3名は1年生から在籍しており、感慨深いものがあります。はじめは、おやつを食べながら、スライドショーで学童の思い出写真をみんなで見ました。まだまだほったがスベスベの3年生の頃、おやつをたくさんほおばる4年生の頃、お泊り会ではしゃぐ5年生の頃、下級生たちと一緒にポーズをとる6年生の写真などなど、懐かしさや笑い、そして涙がいっぱい詰まった写真たち。学童で過ごした6年間をたくさんみんなで振り返りました。

その後は、在校生や私たちスタッフからメッセージ付きの手作りアルバムの贈呈式。私たちスタッフは恒例化していましたが、在校生から卒業生へのメッセージファイルに関しては、スタッフは一切関わっておらず、子どもたちから子どもたちへの呼びかけにより自主的に製作していたのです。これには本当に驚かされました。6年生だけではなく5年生以下の子もたちも自分たちで考え判断し、実行できるまで成長したんだと感じた瞬間でした。6年生からもスタッフひとり一人にメッセージ付きの色紙をいただきました。メッセージには感謝の言葉が書かれています。

### ぶらいむ・たいむ向中野

3月16日(金)、ぶらいむ・たいむ向中野校の6年生11名を送る会を行いました。11名のうち7名は、ぶらいむ・たいむ向中野校が開校した5年前に1年生として入ってきた一期生メンバーです。その事もあってか、昨年度までは送る会の頃には2、3名の6年生が在籍という状況でしたが、今年度は沢山の6年生が在籍してくれていました。当日は、全体でゲームを行い6年生との時間を楽しむ1部会、6年生への感謝の気持ちを伝える2部会の2部構成で時間を過ごしていきました。

1部会では皆でごちゃごちゃになりながら笑い合い、2部会でプレゼントを渡す際には渡す子達も受け取る6年生もお互いに照れくさそうにしながら感謝の気持ちを伝え合っていました。

2部会の中で5年生以下の子たちに「6年生で優しいな、すごいな、カッコいいなって思う事が一つでもある人〜??」と尋ねてみました。すると沢山の子達が迷うことなく手を挙げていて、日々の6年生達が見せていた事、知らず知らずの内に伝えていた事が確かにあった事を実感しました。向中野校にとってこの1年、6年生達の存在はとても大きく、子ども達にとっても、私たちにとっても本当に大切な存在であり、安心できる存在でした。

中学生になっても、一人一人が持つその子なりの良さが輝き続けていくことを心から願っています。ありがとう。



ぶらいむ・たいむ向中野校スタッフ 小川 嘉文

これを読んで私は思いました。「感謝するのは私たちの方。」だと。ケンカしては泣いて、転んでは泣いての子もたちが歳を重ねるにつれ自ら下級生たちの面倒を見ている。

話を聞いてあげる。遊んであげる。私たちはこの子たちに何度助けられたことか。そんな6年生たちは悩みも多く、学校での出来事や学童の隅で静かに泣いている姿をみて話を聞いたりなんてこともありました。大人になって自分を抑えて生活している6年生を私たちをちゃんと開放させることができたのでしょうか。心から楽しませてあげることができたのでしょうか。そんな事を思いながら送る会という時間を過ごしました。卒業生たちにいつでも帰ってきてほしい、そんなぶらいむ・たいむを作っていきます。だからこそ6年生たちにはこんなメッセージを送ります。「ありがとう。」「またね。」



ぶらいむ・たいむ前潟校スタッフ 東森 聡

## 君でいいんだよ ～ JUST THE WAY “YOU” ARE④～

### 『ロック マイ ソウル』

- 1 ロック マイ ソウル みんなで歌おう  
ロック マイ ソウル みんなで歌おう  
オー ロック マイ ソウル
- 2 高くて のぼれない。  
低くて くぐれない。  
広くて 回れない。  
オー ロック マイ ソウル  
ロック マイ ソウル  
ロック マイ ソウル  
ロック マイ ソウル  
オー ロック マイ ソウル

作詞、作曲ともに不明と言われている黒人霊歌の歌詞だ。ところがこの歌、YMCAの中では、めちゃくちゃ有名なキャンプソングの定番だ。キャンプファイヤーや、移動のバスの中でよく歌う。

リーダーの指導のもと、歌詞と振り付けを覚えたら、今度は歌詞の中の「ロック」や「ソウル」という言葉を使わずに歌うというお題が出される。これはなんとかクリアできるが「い(イ)」を言っただけとなると、結構難しい。そうこうしているうちに、ギターの伴奏が早くなると大変。

参加者は振り付けをしながらだから、結構な頻度で失敗する。失敗したら恒例の罰ゲームが待っている。一昨年、春のリーダーキャンプ(新入生歓迎で毎年行っている。)で目的地に向かうバスの中で、ふと気がついた。このゲームに参加している人間は、皆一応に「失敗を笑い飛ばす」のである。失敗した本人も含めて、その失敗を楽しみ、この単純なゲームにわきあいあいと再度みんなで取り組んでいくのだ。

失敗を恐れて、なにもしようとしなことが正解とされがち今の社会の中で、この歌に人気が集まる秘密がわかったような気がした。そして、YMCAの大先輩、内丸教会の中原牧師が職員向けの研修で語っていた言葉を思い出した。

「YMCAは子どもの失敗する権利を保障してあげる所なんだ」

「僕たちは、自分で自分を決定する力を持っている。」

だから誤りを犯すこともある。

僕たちは、自分で自分を決定する力を持っている。

だから誤りから立ち直ることもできる」

ゲーテ

盛岡YMCA 総理事 濱塚有史

## ネパールでしろくまも考えた⑤

「衣食住」やはり外国へ来て一番感動や驚きを感じるのは生活の違いである。

まずは「衣」。10年ほど前までは町を歩く人の大半が伝統的な民族衣装を着ていたらしい。女性は「サリー」という長い布を体に巻きつけるもの、男性は「ダウラスルワール」という膝上程である上衣にベストを羽織るものを着ていた。今では年配の方がちらほら着ている程度で、若者はジーンズにTシャツといった至って普通の格好が多い。日本も着物を着ている人なんてまずいないので外国人にとっては何となく期待はずれな気持ちになるんだなあ実感した。ただ、女性はクルタ・スルワール(パンジャビドレス)というネパールらしい服を着ている人は多かった。鮮やかな色の生地やタタと目立つ。なかなか挑戦し難い色の組み合わせも、しっくりきてしまうのが不思議であった。ネパール人が着ているととにかく可愛いのだ。

次は「食」。代表的な家庭料理に「ダルバート」がある。日本で言う定食にあたり、ダル(米飯)とバート(豆のスープ)におかずや漬物を組み合わせて出すものである。ネパール人は毎日食べているそうだ。ご飯がすすむ味付けで毎食食べ過ぎてしまった。また、香辛料をふんだんに使うので毎日食べていると全身から香りが漂いそうであった。せっかくなのでネパールらしく手で食べてみたら、しばらく手から香辛料の香りが取れなかった。

そして、食文化の中で驚いたのは、ヒンドゥー教は牛を食べないのに水牛は食べるということ。ネパール人にとって水牛は牛ではないらしい。いや...どう見ても牛なんだけど。

最後は「住」。家の素材や造りに強く地域性が出ていて非常に興味深い。建物の多くはレンガ造り。古い建物だとあえて壁に穴をあけて、鳩が入れる場所を作っているということに感動した。伝統のあるネパール彫刻も美しかった。都心から離れると石造りや土壁の家も多くあり、その土地の資源を有効に使っている造りが景色に馴染みとてもきれいであった。そんな中、新しい家はコンクリート造りの家が増えていて地域性が消えていくことが悲しかった。しかし、塗装や装飾が個性的でそれはそれでおもしろい文化だと思った。

きっとまだまだ衝撃を受けるような文化があるはず。好奇心・探究心に火が点く。



盛岡 YMCA

家村 知佳

(しろくまリーダー)

## 「ふりかえり」

こんにちは!チーズです。今回のリーダートレーニングは「ふりかえりの仕方」について東京YMCAのOGである上條さんからお話をいただきました。自分たちの活動を振り返ったりその活動をリーダーと話したりとして有意義な時間を過ごすことができました。

自分の体験を10分間意識して話し続けたことが今までなかったのでもとても新鮮に感じました。また、相手が話したことに対して質問をするのですがその質問は、なぜその時そう思ったのかということを引き出せるように質問するということを意識する質問の仕方でした。改めてたくさんのことを思い返して、体験を聞いて、ということをして自分の中で整理することもでき話をするととても楽しかったです。「ふりかえり」をすることによってその後感じたこと以外のこともふりかえることができるということを改めて感じました。

このリーダートレーニングの経験もふりかえり、この場に来ることができなかったリーダーたちとも共有しこれからの活動に活かしていきたいです。このような時間を設けてくださりありがとうございます。

盛岡大学児童教育学科3年 小野寺 保乃香

## 表紙の写真から



3月10日に開催されたフットサル大会での1枚。この日にはベストキッズを卒業したOB・OGも駆けつけてくれ、世代を超えたYMCAのサッカーで楽しみました。